

櫻井公人教授記念号に寄せて

この3月、櫻井公人先生はご定年を迎えられました。櫻井先生がこれまで立教大学経済学部における研究・教育活動に多大なるご貢献をいただきましたことに心より感謝申し上げ、経済学研究会はここに『立教経済学研究』の本号を「櫻井公人教授記念号」として刊行いたします。

櫻井公人先生は、2003年に経済学部教授として着任され、2023年3月にご退職されるに至るまで、実に20年間の長きにわたり立教大学経済学部の発展に大きく貢献されました。この間経済政策学科長・研究室主任や入試統計委員長、経済学研究科前期課程主任などを歴任され、特に経済学研究科前期課程主任としては、現在では定例化されております修士論文構想発表会や中間発表会などの制度設計を行うなど、研究科の教育改革に多大なご尽力をいただきました。その後2015年からは経済研究所長として経済学部内のさまざまなプロジェクト・ワークショップを統括されるとともに、多くの公開講演会の企画・開催を行っていただきました。また2018年からは全学共通カリキュラムの英語ディスカッション教育センターのセンター長として、1クラス10名程度の少人数で実施する英語ディスカッションクラスの企画・運営を、4名の英語ディスカッションプログラムマネージャーと40名を超える多様な国籍の英語ディスカッション講師とともに担うという、非常に困難なお仕事をお務めいただきました。そして2023年4月からは、新たに特別専任教授として、これまでと変わらず精力的に教育研究活動にご尽力をいただいております。

櫻井公人先生は、経済学部では、当初は貿易論や経済学、その後国際貿易論や国際経済政策論などをご担当され、近年は主に経済政策論をご担当されてきました。また大学院経済学研究科では、経済政策特論と経済政策特殊講義をご担当されました。また学部のゼミナール、大学院博士前期課程の演習指導、後期課程の研究指導を通じて、多くの学生・大学院生を育ててこられました。その中には櫻井先生のご指導の下で博士号を取得し、現在では大学の教員として教育・研究活動に活躍しておられる方もいらっしゃいます。

櫻井公人先生のご研究の中心は国際政治経済学にあることは言うまでもないと思いますが、特にその中で櫻井先生が継続的に研究のテーマとされてきたのは、やはり国際経済秩序が世界システム論に基づいてどのように分析できるのかという問題、ならびに我々を取り巻くグローバル化がどのように変容してきたのかという問題なのではないかと思えます。前者では、櫻井先生は、1980～90年代のアメリカが軍事力や経済力を源泉とするハードパワーあるい

は関係的パワーを喪失しながらも、市場経済や民主主義の理念など、他国が模倣したがる魅力によって世界をリードする、J. ナイやS. ストレンジのいうソフトパワーや、世界における貿易や取引のルールを決定できる構造的パワーを保持し続けることによって、自らのヘゲモニーを小さな負担で維持してきたこと、にもかかわらず2010年代後半に現れたトランプ政権は、反同盟的な傾向と二国間主義によって、このようなソフトパワーや構造的パワーさえ自ら手放し、国際経済秩序におけるヘゲモニーを喪失しつつあることを分析してられました。また後者では、櫻井先生は、近年の米中間のヘゲモニー争いが軍事的な安全保障の原理を強化してしまった結果、サプライチェーンの自国回帰が進められ脱グローバリズムの動きが加速しつつあることなど、世界経済が経済的相互依存を重視するグローバリズムと安全保障を重視する脱グローバリズムの間でしばしば摂動してきた様子を詳細に分析しておられます。

また櫻井公人先生といえば、スーザン・ストレンジという経済学者の名前が頭に浮かぶ方は多いと思います。実は櫻井先生が翻訳されたストレンジの著書は、彼女の多くの著作のうちの『国家の退場』と『マッドマネー』の2冊のみなのですが、わたしを含め多くの人はストレンジといえば櫻井先生のお名前が自然と浮かび上がってきます。これはおそらく、ストレンジに触発された櫻井先生のバブル経済やグローバル化に関するご研究が、非常に大きな影響力を持っていたからにほかなりません。

最後に櫻井先生のご研究の関心の広さを示すエピソードを少しご紹介させていただければと思います。櫻井先生のご専門はもちろん国際政治経済学ということになると思いますが、その一方櫻井先生は、大阪市立大学名誉教授の塩沢由典先生と共に金融経済研究会という研究会を組織され、毎週月曜日に開催されていました。私も何度か参加させていただいたことがありますが、ある時には金融工学の枠組みの何が問題なのかについて、ある時にはMMT（現代貨幣理論）の主張をどのように考えればよいのかについてなど、実に多岐に渡るテーマに関して、毎回非常に活発な議論がなされていたことを記憶しています。また2023年3月には、経済学部佐藤有史先生が組織されていた古典派経済学に関する国際ワークショップに当たり前の様に参加されているのをお見かけしました。本当に櫻井先生のご研究・ご関心の幅の広さには驚かされるばかりです。

櫻井公人先生がこれからもますますご健勝でご活躍されることを祈念いたしまして、本記念号の発刊の辞に代えさせていただきます。

2023年7月

経済学部長 荒川 章義